

平成 28 年度第 3 回石狩市厚田区地域協議会

【日 時】 平成 28 年 6 月 28 日 (火) 18:30 ~ 20:00

【場 所】 みなくる

【出席者】 11 名 (15 人中)

役 職	氏 名	出欠	役 職	氏 名	出欠	役 職	氏 名	出欠
会長	佐藤 勝彦	○	委員	小山 玲子	○	委員	中井 健太	
副会長	渡邊 敏円	○	委員	今光江	○	委員	平賀 敏和	○
委員	大内 さつき	○	委員	坂本 悅生	○	委員	前田 和也	○
委員	大黒 利勝	○	委員	柴田 志寿子		委員	築田 敏彦	
委員	小笠原 英史	○	委員	柴田 肇	○	委員	吉田 美香	

※正副会長を除き、あいうえお順

本 庁 ~ 松田企画経済部涉外調整担当部長

支 所 ~ 西田支所長・田村市民福祉課長・厚田生涯学習課長

事務局 ~ 高田地域振興課長・相原主幹・中村主任
(地域振興課)

【傍聴者】 2名

【次 第】 1. 開会

2. 会長あいさつ

3. 情報交流 (リラックス タイム)

4. 報告事項

(1) 「北の海」厚田アクリアール水彩画展開催について

5. 協議事項

(1) 地域おこし協力隊活用検討委員会の設置について

6. その他

(1) 涉外調整担当 (「道の駅」準備室) からのお知らせ

(2) 東京厚田会について

(3) 学校検討委員会について

7. 次回の日程について

8. 閉会

1. 開会

【(厚) 地域振興課 高田課長】

それでは、皆さんお晩でございます。開会前に築田委員、中井委員、柴田志寿子委員、吉田委員の4名から欠席の連絡を受けておりますので、報告させていただきます。また、今委員につきましては、若干遅れて出席するとの連絡を受けておりますので、あわせてお知らせいたします。

では、第3回厚田区地域協議会を開催いたします。佐藤会長、ご挨拶をお願いいたします。

2. 会長あいさつ

【佐藤会長】

改めて、お晩でございます。間もなく7月。ちょうど今年1年の半分が終わっちゃったんですね。早いものですね、というのを実感したのが、もう1年の半分が過ぎてしまったのに、やっとお天気もある程度安定して快適な日々を送れるというのは、北海道は雪に閉ざされて、春、そして夏、この期間が一番良いなという雰囲気で。まだ夏になっていないわけで、失礼ですけれども、そういうことで、益々北海道は皆さんこれから益々忙しくなりますね。農家の人も、全てこの気候と同時に忙しくなると思います。ここで、地域協議会の委員の皆様にお願いがあります。そのお願いというのは、大したことではないのですが、地域協議会が去年でちょうど10年を迎え、その節目に道の駅の事業を開始しまして、そういう活動がどんどん進んでいます。まずは、道の駅という建物というハードが立ちあがってくるということも地域の皆さんにとっては目で見て分かる実感だと思うんですけど、目に見えて建物が出来てくる実感よりも、逆に向かって地域の皆さんや地域協議会の人々が、そこまでの道のりに思いを馳せながら、立ち上がってゆくとともに、次の世代にその地域活性化の拠点に向けて、自分たち一人ひとりが何をすべきかを、是非立ちあがってゆく姿を見ながら意識をそちらのほうに向けて、出来上がると同時に次のステップを、是非お考え頂きたいというお願いでございます。

それと、お願ひのついでと言うわけではないのですけれども、建物の立ち上がりてくるのは目で見て分かるんですけど、ところが、これに付随する色んなことの仕事っていうのがあるんですが、これは目で見えない。すなわち、池で、こう泳いでいる鳥たちの水かきのところはほとんど見えないのですが、一生懸命泳いでいる姿があるわけです。それと同じように、水面下で一生懸命努力をしながらそれに向かっている人がいるわけです。自分ができる事と同時に、それをやってくれている人への思いも、少し意識の中に入れて欲しいな、というふうに思います。日本人というのはなかなか自分のことというのは、謙虚だから自慢しないんです。こんなことをした、あんなことをした、こんなことを考えた、こんなことをしたというの、なかなか皆さん言わないんです。これは日本人の良いところなのかもしれないし、逆に今の情報化社会ではマイナスでないかと思うのです。有言実行という言葉がありますが、自分はこういうことを考えた、実際にやっているということになるべく多くの人たちに知っていただきたい、情報を共有したいという気持ちを私は持っています。例えば、支所の皆さんや、今年の4月から本庁から準備室として厚田支所に道の駅のためだけに何人かの人たちが来て頂いております。その松田部長を初め準備室の皆さんも、彼も日本人そのものですから絶対自慢はしない、だけども大変な苦労をしながら建設に向けて、そして仕上がったあの地域にそれを手渡す時に、地域の人がそれを喜んで自分たちでそれを運営しながら地域をより活性化してゆく、そういうことを期待しながら目に見えない、大変なことをなさっていると思うんですね。そういったことへの思いも少し意識し、できあがってからの地域一人ひとりが何ができるかを考えて頂きたいということを、今日はちょっと長くなりましたがお願いして挨拶にいたします。

では、早速会議のほうに進みたいと思いますけれども、ちょっと堅い話となりましたのでリラックスタイム。

3. 情報交流（リラックス タイム）

4. 報告事項

【佐藤会長】

それでは、報告事項に移りたいと思います。

いよいよ今年は第3回目の水彩画展が開催されます。開催に向けて実行委員会が活動しております。

「北の海」厚田アクリアレール第3回水彩画展について、大黒委員からお願ひいたします。

(1) 「北の海」厚田アクリアレール水彩画展開催について

【大黒委員】

隔年おきにやっているんですよね。平成24年から始まって、第3回目になります。何事も3回目というのには、ひとつの節目ということで、大変盛り上りました。目標は200名ぐらいの人たちからの応募を期待したのですが、1回目では111名の2回目は86名の、下がったわけですが、今度は113名の方が応募されました。

ほんとは200名が目標だったのですが、残念ながら。いろいろ工夫して札幌の地下歩行空間で実演したり、道新の元旦1面で宣伝をやったり、それから素晴らしい美術雑誌のところに宣伝したりしたんですが、なかなか思うようにいきませんでした。しかし、作品の質はすごごく良いわけなんですよ。各段の差ですね。だから、（作品の）レベルが高くなっています。審査は6月18日に終わって、大賞1名、優秀賞2名、佳作8名、入選35名、誌上入選20名の66名が143点の中から選ばれたわけですから大変なことですね。私が関係した石狩の関係とか私の居た根室とか雨竜とかで入選したのは一人だったかな、あとはみんな誌上入選や落選で、それくらいのレベルが高くなってきたということです。審査員も今まで3名だったのですが、一人増やしました。宮川美樹さんという道展のトップクラスの人がいるのですが、その人と三留さんという小樽の人、新しく審査員に小堀さんという道彩展の会員で白日会の会員で全国レベルの人、そして私の4名で審査しました。1位になった（賞金）50万の作品を選ぶのも大変だったんですけど、皆さんご存知か分かりませんが、ワイエスというアメリカの有名な画家がいるのですが、それを凌ぐような素晴らしい絵だったんですね。その1位の人は北海道じゃないんですね。京都府の舞鶴出身で、福田隆義さんという方です。今まで北海道の方が1位だったんですが、京都に（1位を）獲られました。優秀賞は札幌の方。札幌の方も比較的若い人が入りました。この審査会のときに協力してくれたのが、厚田中学校の文化部の生徒や先生方、厚田こだわり隊の方々の協力をもらいました。有難うございました。この次は表彰式がありますから、会場設営のパネル設置があり、あの作業が大変なので、また皆様のご協力によりスムーズにやりたいと思いますので宜しくお願ひいたします。私、去年やりまして腕を少し痛めてしまい、それぐらい重たいものですから。それから表彰式は7月23日、厚田スポーツセンターで行います。24日から8月7日までの15日間、同じくスポーツセンターで展覧会があります。10時から17時まで開催していますので宜しくお願ひいたします。

5. 協議事項

【佐藤会長】

次に協議事項に入りたいと思います。今日は地域おこし協力隊活用検討委員会設置について、相原主幹から説明いただきたいと思います。

（1）地域おこし協力隊活用検討委員会の設置について

【（厚）地域振興課 相原主幹】

皆様、こんばんは。皆様のお手元に資料1から3ということで、地域おこし協力隊の検討会の資料をお配りしておりますので、そちらを合わせてご覧下さい。平成26年度から導入された地域おこし協力隊、いよいよ今年3年目を迎えております。本日、沼倉隊員は起業セミナーを受講するため欠席しておりますが、3年目の最終年度を迎えております。この導入に伴い、この3年間の活動、導入の総括を導入時に設置した検討委員会と同じように委員会を設置して検討したいということでご承認いただければと思います。

資料1のほうには、参考なのですが、導入に当たってこういう人が来てくれたら良いなということを検討委員会でまとめた結果になります。資料2は、地域おこし協力隊の導入に際して、地域で迎え入れるための広報として「地域おこし協力隊とは何なのか」や「こんな方が来ます」といったことを区内に3回、全戸配布しておりますが、その1回目の配布物になります。こんなことを期待して（地域おこし）協力隊を導入していますよということを表しております。では、どんな方々が検討委員会の構成メンバーかといいますと、資料3に前回の名簿をつけております。この地域協議会から2名、佐藤会長と前田委員、地域の方々、学校の先生等こういった方々で構成されておりました。今回も、このような形で委員会を構成したいと考えておりますので、まずは（検討委員会）設置のご承認と、もう一つ地域協議会から2名の選出を頂いておりますので今回も2名の選出、こちらのほうもお願いしたいと思います。

【佐藤会長】

はい、有り難うございます。この地域おこし協力隊は、全国的な地域活性化のために総務省が導入したということで、国の交付税を受けながら地域活性化に向けて3年間、地域の中に入って、ゆくゆくは地域にお住まいしていただくということを目的にした制度です。全国、結構な数が地域おこし協力隊として地域活性化のために働いているわけですが、成功している例、あるいは失敗している例、何を持って成功あるいは失敗というのはもっと深く分析しないとならないのですが、ただ単純に地域にお住まいしていただく、要するにその地域を気に入って自分のやりたいことがその地域から見出せた、そして自分がそこに住もうということを地域おこし協力隊がそう思うかどうか。そう思ってその地域に住まいをするかどうか成功・失敗という例でやりますと、だいたい6割の人たちがその地域にお住まいになる。ですから、6割だったらこれは制度としては大成功だろうという人もいます。そういうことを考えてこの地域おこし協力隊を厚田地区で初めて導入いたしました。当然、石狩市としても初めての制度であります。ですから、この制度を次に続けていくためには1回目の地域おこし協力隊の活動そのものを細かく分析して、次に導入するときの資料にしたい。そういうふうに思っております。いま、相原主幹から説明がありましたように、地域おこし協力隊の導入に当たっても検討会で検

討し、その検討結果を地域協議会の承認を頂いて協力隊導入というプログラムに沿って行ってまいりました。よって、自分たちで作ったプログラムでそれに乗った協力隊の行動を分析するというのも、これは検討会の責任だというふうに思っております。次に向けてそういう資料データを分析してゆく必要もあるだろうとも思っております。というところで、まず、今回もこの資料3の協力隊活用検討委員会を再度立ち上げ検討してゆく。これは、次に向けてでもあります。そこ（資料3）にジャンルと書いてありますが、地域協議会、地域活動団体、地域、それから厚田支所、こういう領域でそれぞれの委員が決定してまいりました。ということで、今回も協議会から2名程度ということで、地域協議会からこれは推薦をいただいて、事務局でお決めいただくということになっております。2名、皆様方から、ご推薦いただければと思います。

地域活性化のために、自薦他薦を問いませんので、地域おこし協力隊のいろんな意味での活動も自分でやつてみたいという方、ございましたら。誰かいらっしゃいませんでしょうか。もし、いらっしゃらないようでしたら、この地域おこし協力隊の（資料1）原案を作成した、言ってみれば後押しした、前の委員2名がおります。この2名は、この地域おこし協力隊に携わっておりますので、この2名にお任せしましょう。その2名であります。よろしいでしょうか。

【委員】

いいと思います。

【佐藤会長】

ということで、事務局よろしいですか。

【(厚) 地域振興課 相原主幹】

では、佐藤会長と前田委員、宜しくお願ひいたします。他の構成員については、異動等もございますので、事務局に一任願いたいと思います。スケジュール的には、検討結果を9月くらいを目処に取りまとめたいと考えています。

6. その他

（1）渉外調整担当（「道の駅」準備室）からのお知らせ

【佐藤会長】

はい、では、その他のところに書いてある渉外調整担当の方から、道の駅準備室からのお知らせについてというのがございます。建設の動向だとか、地域密着型観光まちづくり事業などの取り組みについて、松田部長のほうから宜しくお願ひいたします。

【渉外調整担当 松田部長】

お疲れ様です。それでは、今の状況をお知らせいたします。会長の挨拶にもありましたハード、ソフトそれぞれでということで資料6を、最初にハードの絡みのお話をしたいと思います。いよいよ、この6月造成工事や資料室の解体工事の契約も終わってまもなく工事に入ってまいります。資料室の解体を終えて概ね2,3ヶ月かけてその辺をやり、その後テニスコートの辺りを第2駐車場ということで設定しておりますが、来年度以降始まる建築工事だとかの工程も考えて、まず最初に第2駐車場の方を整備してそのあと、来年から本体含めて近場の工事に入ってゆくという予定になっています。1点、実施中2ヵ年程度、びっしり工事に入ることになるわけですが、恋人の聖地ですか開村記念碑ですか戸田生家ですかを訪れるお客様がいらっしゃるわけで、その間、何らかの形でそちらに行けるような対応をすることとしています。当面、資料6でお知らせしているのは6,7月の部分ですが、工事期間中パラパラと公園エリアで工事をしますが、まず暫定的に8月9月くらいまではごらんの矢印の方向で出入りできるという対応になります。工事が進んでくると、別なところから通すだとか、ということになってきますので、その都度会場のほうに行っていただいても分かるような形の提示をご案内しながら、支所、市役所へもこの辺りの問い合わせが多く入っておりますので市のホームページでも随時ご案内をしたいと考えております。ハードの部分についてはザックリそういったことで。

次にソフトの部分ですが、ソフトは正に複合施設の基本構想の中で近説遠来をテーマとし、これまでいろいろ地域活動をされてますが、そういう部分をがんばってゆく一方で、域外から人を呼び込んでくるかというソフトの事業でもいろいろ取り組んでゆく必要があるというふうに思っています。やることはたくさんありますが、今日はその中の部分として二つご案内いたします。平成28年度厚田地域観光活性化促進事業ということで、二つの事業を市の予算と観光振興機構というところから2、3百万引っ張ってこれたので、今年はまずやってみようというご紹介です。

一つは着地型観光商品造成事業、簡単に言うとツアーデvelopmentということで、これまでバス等のツアーハーはありましたが、改めて2年後にできる道の駅を拠点として厚田区内また浜益を含めて地域をいろいろ周遊していた

だくようなきっかけ作りとしてツアーや開発をしていく事業でございます。ここの部分については、先ほどの観光振興機構のお金を貰っている関係もあって協議会組織を作った中で取り組むという形になっております。それが資料5の文章になっております。この事業自体、今年についてはこの（資料）5にありますように7月14日に協議会を立ち上げて、そのなかでセミナー的に観光を切り口とした地域づくりについて、セミナーをやりつつ地域資源の掘り起こしやツアーやしてどんなものが商品になるのかといった部分について、9月には道内にはいろいろとそういった先進地がございますので、そういうところを実際に見ていただき、そういうところに携わっている地元の方と話をして、厚田のエリアでもツアーややってみようと、時期が良い時期ではないのですが、雪が降る前に何とかやりたいなと考えています。今年については、振り返りもしますし改善事項も確認して、今年で終わる話ではないです。来年度もどんどんプラスアップ（磨き上げ）を含めた事業をやっていこうと。そして、（平成）30年度のオープン前からこういった事業で厚田を訪れてくれる方々というのを少しずつ増やしていくという取り組みです。もう一つの民泊の推進事業というのは、厚田にしろ浜益にしろ人を呼び込んで滞在していただくには宿泊施設が十分にあるかといえば、必ずしも多いわけではないということもあり、民泊というのは巷でも話題になっていますけども、この民泊という部分が厚田浜益等で実現ができるか、できないのか可能性をまずは研究から始めてみようという事業でございます。こちらについてもセミナー等あるいは先進地視察、この辺では長沼町さんとかが民泊をいろいろ盛んにやっているのは皆さんもご承知かと思いますが、そういうところに行って実態を聞き、関わっている方からもお話を聞いて、どんなことができるかということを今年一回考えてみたいということでございます。これもモニターリングに実施して、やってみてどんな課題があるのかどういう改善ポイントがあるのかというところまでを今年やりたいと考えています。これも今年で終わる話ではなく、来年度もプラスアップに繋げてゆきたい。

資料5にあります、繰り返しになりますが14日に協議会を設立して動いてゆきます。事前に観光協会であるとか関係機関に生産者を含めてお声がけをしている方もいますけども、こういった事業に自分たちも含めて積極的に関わっていただきたいと思っておりますので、メンバーを固定してやることではなく、広くオープンにしてやってゆきたい。

こちらについても、何らかの形で皆さんに関わっていただきたいと考えております。本日については、ハードの部分そしてソフトの2事業についてのご紹介でした。以上です。

【佐藤会長】

はい、ありがとうございました。皆さんたちに道の駅に関して、ハードの方は順調に、順調というよりはギリギリの時間内に収めるという大変な作業を進めて行っていただけると思いますが、そういうハートの部分と厚田の地域観光、いわゆる着地型、ちょっと寄ってちょっと見ると見るという観光ではなくて、じっくりそこに腰を据えて観光するようなプログラムをこれから作っていくという事業であります。前にもこの地域協議会で皆さんと地域のあるいは厚田の宝を掘り起しながらそれに磨きをかけて観光資源として売り込んでゆこうという話がありました。そういう思いをこの事業が具体化してゆくということになります。もう一つは、これもまた皆さんからいろんなご意見を頂きました「空き家」の利用もいろんなことでそれも同時に厚田区では宿泊施設が全くといっていいほど無い。団体さんで泊まるなんてことはホントに無い。なるべく宿泊施設を民の力でといったらおかしいですけど、地域に住んでいる何でもない普通の家の方がそれに一部屋宿泊の場所を提供するという民泊を推進してゆく事業。これが本格的に動き出すというようなお知らせがありました。言ってみれば、地域協議会の皆さんが出た思いを少し形にしてくる事業かなということで、松田部長から説明がありました。この3点、ハードと2つのソフト事業についてご質問があればお受けします。

【小笠原委員】

資料5なのですが、呼びかけている範囲をもう少し詳しく教えてください。

【松田涉外調整担当部長】

まだ確定しているわけではないですが、グリーンツーリズム協議会を農政でやっておりそちらに河合（徳秋）さんだと浜益の木村（武彦）さんといった方が入っていたのですが、その関係の人たちや農協・漁協、観光協会、また乗馬、浜益で言えばシーカヤックだとか、といった体験型の事業を事業としてやってる方々もいらっしゃるので、そういう方々たちを含めて声をかけています。2、30人には声をかけており、できればそういう形の中で自分の事業を含めて活用してゆきたい思いもありますので、そういう人たちにお声がけを終えている状況です。非公式にやっているわけではないので、興味がある方についてはこれからもどんどん入れて、実際にこれを使って自分達のところにお金を落してくれれば、生臭い話ではないですが、やっぱり事業にしてゆくことが地域の活性化の一つ大きなポイントになりますので。そういう形のものがどうできるかということをやってゆきたい。ここについては、ちょっと先ほど申し上げなかったのですが、当然旅行会社ですとかそういうツアーや組んでいる方も関わっていただいて、うちはこんなに素晴らしいですよというものが、本当に商品として魅力があるのか、逆に魅力はあるのだけれど磨き方あるいは発信の仕方が必要なんじゃないか、

こういった部分についても外のそういった事業を見ている人たちに入ってきてもらって一緒に考えてもらうというようなことをやってゆきたいというのが基本にあります。

【小笠原委員】

自分は、こういう中身について昔から興味があって、凄く厚田に向いていると前々から思っていました。せっかくこういうふうに形になるので、凄くこれを大事にしたいと思います。その時に、狭い範囲で始めてしまって、後から「入ってよ」と言われてもなかなか入りづらい気がするので、最初の声かけをしっかりと広くやってもらいたいなと。

こっちの協力隊の関係も、こういう集め方をしてしまうと、どうしても呼びかけた人の責任感がある人もいるし、ない人もいるし、この人は何の関係できたのかという気もするので、最初の筋というか仁義というか、そういうのを結構大事にしてもらいたいと思います。

【松田涉外調整担当部長】

そのような部分を考えてやってゆきます。当然、佐藤会長に相談したり、厚田支所とも協力しながらやってゆきます。今、厚田の方で出してくれている「道の駅だより」もありますが、次回の発行が7月の中旬位の回覧に合わせてやりたいといった話をしているので、こういった取り組みの内容については、広くお知らせしてゆきたいと思いますし、最初にお話ししましたが、まずここがスタートで、28年度はまだまだ取っ掛かりなんですね。30年度がゴールでもないし、第1フェーズとしての30年度オープンがあり、その後ももっと続いてゆかなきやならない事業なので、先ほども後から入りづらいといようにならないように、いつでも入ってこれるような運営も心がけてゆきたいと思っております。

【佐藤会長】

これは、声かけをして地域全部に回覧か何かで回すのでしょうか？

【松田涉外調整担当部長】

この紙（資料）自体は全戸配布というふうに（量があって）できないと思いますが、事業のお知らせとして、先ほどの「道の駅だより」ですとかそういうもので出してゆきたいと思っています。そういった部分では、今日ここで拙い説明ではありましたが、地域の中でもこういったことをやるんだという話題を皆さんのお伝え頂ければ有難いです。

【佐藤会長】

はい、了解いたしました。ということで、この観光まちづくり協議会というのはクローズではなくオープンの拡張型協議会とお考え下さい。1回目の話し合いには出なかったが、人から聞いたら何か面白そうだから行って参加してみようという形をとって良いということです。是非皆さんも関心を持っていただきたいと思います。あと、質問ございませんか。

次は、東京厚田会という、東京にこの厚田出身の方の会を作ろうじゃないかということで、これは前から言われていたのですが、西田支所長が来て世はやるぞということで進められていたのですが、説明は相原主幹からということでお願いいたします。

（2）東京厚田会について

【（厚）地域振興課 相原主幹】

会長からお話があったとおり、現在、東京厚田会の発足に向けて動いております。市町村合併があり、石狩市には東京石狩会が浜益にも東京浜益倶楽部という会がございまして、一つになった石狩市ではありますが、やはりふるさと厚田のつながりをもっと持ちたいという声がたくさんございました。その声を後押しに東京厚田会の発足に向けて準備を進めております。発起人の方がお受けいただけまして、会員が15名弱の名簿を支所で把握しており、この方々にまずこういた動きがありますという通知をお出ししようと思っています。

東京石狩会の総会が10月8日（土）と既に予定されておりますので、この総会に合わせて東京厚田会の発足をしたいと考えております。皆様にも、東京方面にお住まいの方がいらっしゃれば、情報提供をお願いしたいと思います。そういう方がいらっしゃればご案内をお送りしたいと思いますのでよろしくお願ひいたします。

【（厚）西田支所長】

東京厚田会もオープンといいますか、出身者だけではなくて厚田を好きな方でも構いませんし、ゆかりのある方でも構いませんので、まずはここをスタートに受け皿として会を作りたいと思いますので、いろいろとご協力をいただきたいと思います。

私と相原とは6月の初めに、その発起人になっていただきたい方にお会いしてきました。その中でも話に出

ていましたが、（東京石狩会があるが）「厚田」というネーミングがなければ集まらない、集まりづらいというお声があるのも事実でして、東京石狩会という本体があり動くのですけど、厚田会は厚田会としても大切にしてゆきたいと考えています。また、合わせて（発起人と会った）次の日ですが、子母澤寛の実のお孫さんという方にもお会いできて、横浜の方に住んでいらっしゃいます。73才と高齢で体調を崩されていましたが、お会いできました。その方もやはり厚田については、思いをお持ちの方でいらっしゃいました。いろんな意味でご協力いただけるという力強いお話もありましたので、そこからいろいろな枝葉が伸びて吉葉山ですか、戸田城聖ですか佐藤松太郎ですか、いろいろな意味でつながりができると思いますので、そういったことも今後大切にしてゆきたいなと思っております。ご理解ご協力を宜しくお願ひいたします。

【佐藤会長】

ということで、力強く右手を上げた西田支所長でございました。

【柴田（肇）委員】

東京厚田会という括りだと、関東どの辺まで…

【(厚) 西田支所長】

考え方としては、埼玉でも栃木でも構わないと思います。浜益の東京浜益会も元々関東浜益俱楽部という名称で広く東京近辺の県からも出身者を集めてやられておりまして、もう50年以上の歴史を持つくらい古くからスタートしており歴史がちょっと違うのですけども、決してどこの県だからだめだとかそういうことはまったく思っておりませんし、逆に大阪にいるんだけどもといった極端な例も、そういう会があるのであれば参加したいというものを全く拒むものではありませんので、まずは広く厚田にゆかりのある方にお集まりいただきたいなと思います。どんな活動ができるかはこれからなのですが、まずはそこからということでスタートとさせていただきたいと考えております。

【柴田（肇）委員】

東京近辺ということでよろしいですか。

【(厚) 西田支所長】

はい、東京近辺でよろしいです。渡邊副会長のお姉さんも埼玉県に住んでいらっしゃいまして、（会に）入っていただけるという心強いお言葉も頂いておりますので。

【佐藤会長】

東京厚田会は東京近辺ということで。それから、西田支所長がお会いした子母澤寛のお孫さん、宮川さんというのですが73歳ということは私と一緒になんですよ。そこに貴重な資料がたくさんあり、特に家族しか持っていないような家族写真ですか、そういうものをたくさんご提供いただきました。彼も「あつた」という三つの言葉に魅力を感じています。意外と我々が意識しない「あつた」の三文字が、東京厚田会を作るくらい有名さがあります。子母澤寛の話をすると時間にキリがありませんので、お孫さんにお会いしていただきました。もし、親戚縁者、ご兄弟、おりましたら事務局の方までご一報をお願いいたします。

それから、学校検討委員会が各地域で行われまして、厚田、望来の二つが終わってますね。それから聚富が7月の5日にあります。ということで、学校検討委員会につきまして田村課長から宜しくお願ひいたします。

(3) 学校検討委員会について

【(厚) 市民福祉課 田村課長】

みなさん今晚は。私のほうから学校統廃合説明会について、会長からもありました厚田小中の地域、望来小の地域について、先日6月21日22日で終わりました。聚富小中については来月7月5日に行われます。この検討委員会ですが、昨年度の末から厚田地区、本町八幡町地区含めて13箇所で行ってきてまして、教育委員会から原案を示して、それについて各地域からいろいろな意見を聞き、それを元に28年度入りまして新たな提案をさせていただくということで説明会が開催されています。大きく変更された点というのは、聚富小中の地区的考え方が変わったということです。それは、厚田区虹が原という住所にお住まいの児童生徒に関しては、学校自体を八幡小・石狩中の校区にするということです。他の厚田区聚富という住所につきましては保護者、児童生徒の希望によって八幡小・石（狩）中に行く又は新しくできる統合の小中学校に行くという選択ができるという説明を厚田小中、望来小の地域で説明させていただいています。聚富小中の地域は今後になりますが、同様の説明をする予定と聞いています。6月21,22日の検討委員会の席上での意見では、厚田については校区的な話は特に出ませんでした。どちらかというと新しくできる小中学校についてのコンセプトというか、どのようにやってゆくかといったということをきちんとやって欲しいということと、統合が平成32年を予定して

いますが、32年に急に子どもたちが会うというよりもそれ以前からいろいろな行事を通じて子どもたちが会えるような機会を作つて欲しいと言う意見がありました。望來地区については、ちょっと微妙な位置関係になつておりますて、ちょうど中間地点といいますか、今の望來小は7名で来年度1名の新入生は予定されています。その保護者の方から、望來地区についても（校区の）選択ができないかという話が出ていました。これについては、教育委員会も明確に回答を出せませんでしたが、個別の相談になる、といった話がでていました。今後、再度聚富地区での説明会でどのような意見が出るかお聞きして、今後確定させると思います。スクールバスについては、聚富地区についてどちらか選択した場合のスクールバスについては走らせますと教育委員会では明言しておりました。

【佐藤会長】

はい、有り難うございました。これは、一番微妙なのは望來地区なのです。聚富地区の子どもさんは、虹が原の校区は向こうに行きますね、ところが道を一本隔てて隣り合わせるようなところの子どもたち、聚富のお子さん達は向こう（八幡町）も申し出によって選択できる。そうすると望來との境のところに住んでる方だとか、（親が）石狩で働いてる望來のお子さん。例えば厚田に子どもが通学しているときに、何か急病だというときそこまで迎えに行かなければならぬという物理的な距離。そういう緊急時の心配だとか、冬の間の吹雪ですか通行止めになりますよね、そういうところのご心配なんかが親御さんにあるのではないかということです。この望來地区が一番微妙な所なんですね。本来的に言えば物理的な距離で半分と言つてしまつたら、この望來地区ではなくて古潭よりもちょっと向こう側になります。これは、発足から計算しますから。発足のお子さんをお持ちの方から、聚富まで物理的な距離をちょうど二分の一にしますと、古潭よりちょっと向こう。ということを考えると物理的な地域の距離としては、この望來地区は微妙な所になります。親の心情としては。ですからこれは教育委員会が個別にそういう親御さんと対応する、今のところはそういうことになっています。

もう一点、この地域協議会から地域教育というものが地域の活性化に無くてはならないものだ、重要なことだというご意見の中から地域教育分科会というのをこの地域協議会の中に作つておりました。その地域教育分科会の中では、コミュニティスクールという学校運営協議会というのを全国的な規模で行つられておりまして、その勉強会を始めておりました。ところが、この統合問題が具体的になつてきましたので、その地域教育分科会は一旦お休みにしました。これは、一つの圧力団体のようになつてしまつてはまずいので、一旦休憩しております。7月5日に聚富の報告会が終わつた段階で、この地域協議会の中から立ち上がりました地域教育分科会を再度立ち上げます。また活動を再開するということになります。だいたいそこで決まりですから。そうすると、この団体が決して圧力団体ではなくて純粋にそういう地域活性化するためのコミュニティスクールの勉強をちゃんとやる、親御さんや地域の方と勉強するというのが目的ですから、その再開をしたいと思いますので、興味のある方は分科会に是非、委員の皆さんもお入りいただき地域教育をどうしてゆくか、それから小中一貫という学校制度というのは今まで厚田区になかった、ですよね。小中一貫がなぜ必要なのか、それからそれにプラスしてコミュニティスクールと学校運営協議会はどんな機能を持っているのか。そこで地域の人や親御さんがどんなことを主張できるのか、そういうことを勉強する会ですから7月5日、聚富の説明会が終わつた後に再開しますので、その時はまたご報告できるかと思います。学校検討委員会について田村課長からご説明いただきました。これについて、何かご質問ございませんか。

次に、以降の行事関係について高田課長よろしくお願ひいたします。

【(厚) 地域振興課 高田課長】

私のほうからまず、実行委員の立場からということで一つご紹介いたします。7月3日日曜日になりますが、厚田区コミュニティゆめ俱楽部主催の毎年恒例の「スポーツと食の体験」がみなくるの野外広場で開催されます。今年で11年目になりますて、10年一区切りということで11年目以降は、会としてももっと区内の人だけではなく区外の方、市内の方、浜益ですか石狩花川地域の方々にも参加をしていただけるようなことを目標にしながら、また、区内の方も幼児、特に学校に上がる前の子どもたちとか高齢の方に、より多く声をかけて多くの人に参加していただけるようなことを目標に11年目以降やっていこうということでこの3日に開催する予定になっています。時間は10時開会式となっており、開会式を終えてから恒例の玉入れ競技、これは部門別にやってゆきます。そのあと地域おこし協力隊による企画ということで今年も用意されております。その後に昼前最後の競技になります飛行機グランプリ、紙飛行機飛ばしコンテストをやり食のほうに移るわけですが、今年は食の体験としてホタテ焼きの体験をしつつ食べていただこうと。それから恒例の手打ちそば、それからご飯ものは正利冠の婦人会の方に協力いただけるということで、婦人会の方による五目御飯になると思うのですが、ご飯を作つていただける。それから毎年恒例ですがJA加工グループからシソサイダーの提供していただこうかと。はまなす園さんも毎年いろいろ協力いただいておりますが、きのこ村さんですか、こむぎっこさんのパンですか、はまなす園の方々にも協力をいただきながらこの事業をやってゆきたいと思っております。終わりは一応1時半位を予定しております。参加費は協賛金もそれには入つているのですが、ワンコ

イン500円かかるのですが、お昼をその500円の中で食べていただきますので、是非協議会委員の皆さんも時間が合えば参加していただきたいと思います。また、当日はライフサポートの会も協力をいただきまして、高齢者の方や足のない方の移送も実費のガソリン代相当でやるということで、一律200円いただいて行き帰りの送迎をするということで協力いただけたことになっておりますので、合わせて委員の皆さんの方からもそれらの情報を伝えなければと思います。

それから二つ目は、支所の部分ですが海水浴のオープンについてお知らせいたします。今週の土曜日7月2日ですが海水浴の安全祈願祭を別府の宮本の浜で、区内の4事業者が集まって関係者も集まりまして祈願祭を行うことになっております。オープンの状況ですが、既にジェットビーチという昔の田中さんの裏で、望来南浜と言っていた場所ですでにオープンしております8月28日まで開業すると聞いております。それから、望来中央浜という離(まがき)さんがやっているところが7月2日から、別府の宮本さんがやっているところも7月2日からそれぞれオープンして、望来中央浜は8月28日まで、別府の宮本さんの厚田ビーチセンターは8月21日までになっております。また、市の施設であります厚田海浜プールにつきましては7月16日から8月14日まで営業することになります。

それともう1点、この4月から地域振興課の方へ自治会の業務が移行されまして、実際に五連との会議の中では今年どんなことをやるかといった説明はしているのですが、具体的に今月の末から各地毎に今の現状ですか、町内会の課題などの聞き取りをする会議を持ちまして、いろいろな話題などを出していただきながら今どういう状況にあるのかというところをまずは現状把握するところから動こうと準備を進めております。合わせて街灯のLED化ということで数年前から市も二分の一助成をしておりその活用について、厚田の中でも聚富地区は全てLED化されており、厚田地区のいくつかの町内会はLEDに買い替えしております、電気代や修繕費も下がり町内会の負担も抑えられていることもありますので、その実績も現状の把握と合わせて皆さんにお知らせしながら、極力町内会の負担が少なくなるように、こういった制度を活用していただけるようにシミュレーションしながら進めていきたいと考えております。それらの現状を含めた状況は、この地域協議会のなかで、まとまり次第逐次皆さんにご説明したいと考えています。

【佐藤会長】

それでは、委員の皆さんからその他何かございませんか。

【柴田(肇)委員】

今年の4月から浜益札幌線(のバス)が無くなってしまったが、どんな利用状況で推移しているのか、わかる範囲で、今まで構いませんし次回でも構いませんが、どんな雰囲気なのか皆さんにも伝えていただければと思うことが一点と、もう一点はさらに、道の駅が完成した段階で我々ライフサポートもそこの道の駅を中心として動こうという構想は持っているのですが、何せライフサポートのメンバーもNPO法人そのものも、この地域協議会から発足している会ですので、新たに道の駅ができる後のライフサポートのあり方や、NPO法人化していますので会計とか規約もありますからこの辺を道の駅の進捗状況と合わせて一緒にセットで考えていかないと、できてしまってからさて規約どうするんだとか、内(側)をどうするというのがおそらく状況に合わせて変化していくかざるを得ないという感じがしています。ですから、こちら辺も意識していただいて示唆を与えていただければ、ライフサポートはライフサポートでいろいろ検討して行かなきやならないと感じています。これも次回以降で構いませんけど、そんなことも考えなきやならないかと。着地型の商品とかいろんな開発もせにやならんというものもあるのですが、これはこれでライフサポートも考えなきやならないという感じがしています。

【(厚) 地域振興課 高田課長】

一点目の厚浜線のデマンドバスについては次回までに資料を整理させていただき、担当課長の方から説明していただこうかと考えています。二つ目の部分については、私もライフサポートの会と一緒にやらせてもらっているので、先ほどお話ししたように自治会といろいろな話をしてゆく中で、そういう交通の問題も将来に向けて必ず出てくると考えています。ある意味、そういったことも話題にできるような進め方をして、どういうふうに地域の方が考えているのかということも引き出しながら、ライフサポートの会とも話をしてゆきたいと考えております。

【佐藤会長】

その他、何かございますか。よろしいでしょうか。
それでは、議題がすべて終わりましたので、終了します。
どうもありがとうございました。

7. 次回会議等の日程について

平成 28 年 7 月 27 日 (水) 18 : 30 ~ 厚田保健センター

8. 閉会

平成 28 年 7 月 27 日 議事録確定

石狩市厚田区地域協議会

会長 佐藤 勝彦